

えひめっこピカイチ大賞について

～ピカイチ大賞表彰式について～

令和7年1月9日（木）に、愛媛県庁において「令和6年度えひめっこピカイチ大賞」の表彰式を開催しました。令和6年度は、「タイピング」「計算」「読書」「情報活用」の4部門を設定しました。



表彰式では、えひめっこピカイチ大賞を受賞した1,951名のうち、特に優秀と認められた児童生徒に愛媛県教育委員会、愛媛県教育研究協議会、日本教育公務員弘済会愛媛支部より賞状及び記念品が授与されました。



1 タイピング部門

- E I L Sのタイピング検定アプリを用いたコンテスト方式で選出

2 計算部門 ※R6年度から新規

- 計算検定の受験回数や最高記録を総合的に判断して選出

3 読書部門

- 読書量やみきゃん通帳に記録した感想を総合的に判断して選出

4 情報活用部門

- 主題の明確化、内容・表現の工夫、キャリア教育の視点の3観点をもとに総合的に判断して選出

令和6年3月に改訂した愛媛県ICT教育推進ガイドラインに示す児童生徒の「Can-Doリスト」に関する調査において、令和6年度にCan-Do達成度がB以上となった児童生徒の割合は、文字入力スキルでは小学6年生96.0%、中学3年生90.4%、プレゼンテーション技術では小学6年生91.1%、中学3年生85.2%と、高い割合でスキルが身に付いていることがうかがえます。

E I L Sのタイピング検定アプリの活用をはじめ、先生方が日々の授業等で積極的に1人1台端末等のICTを取り入れて指導していることが、子供一人一人のスキルの向上につながっているものと思います。

※ 表彰式や受賞作品の詳細につきましては、県教育委員会義務教育課HPに記事を掲載していますので、ぜひご覧ください。



令和7年度の義務教育課の取組について

～ 子供たちの資質・能力の育成のために ～

県教育委員会では、「愛媛県教育振興に関する大綱」に掲げた振興方針を踏まえ、毎年度、教育の基本方針及び重点施策を策定しています。未来を切り拓くたくましい子供たちの育成に向けて、多面的かつ重層的な取組を展開するため、義務教育課では、今年度、特に次の2点について力を入れていくこととしています。

1 ICTの効果的な活用による学力向上の推進

- 「第4期学力向上推進3か年計画」の基本方針としている、「アナログとデジタルのベストミックス」をキーワードとした授業改善を更に進め、学校教育の質の保証・向上を目指します。
- えひめICT学習支援システム「EILS」の機能を強化・活用し、より一層、英語コミュニケーション能力の強化を図り、将来の愛媛の発展を支えるグローバル人材の育成に取り組みます。
- 生成AI等のデジタル技術の進化に対応するため、「えひめデジタル・シティズンシップ育成事業」を立ち上げ、子供たちの発達段階に応じて、新技術を適切に扱う実践力や対応力の育成を図ります。



2 不登校対策の充実

- 未然防止と早期解消に向け、大きな成果を上げている校内サポートルームを、県モデル校として3校増設するなど、支援体制の充実強化を図ります。
- メタバース上での学びの場「メタサポキャンパス」を活用し、個々の児童生徒に寄り添ったきめ細かな支援に取り組むなど、引き続き、関係機関等と連携を密にし、県内全ての児童生徒の社会的自立を目指した切れ目のないサポート体制を構築します。



昨年12月には、文部科学大臣が学習指導要領の改訂について中教審に諮問しています。その中では、生成AIが飛躍的に発展していることを踏まえ、個別の知識の集積に止まらない概念としての習得や深い意味理解を促すとともに、学ぶ意味、社会やキャリアとのつながりを意識した授業改善を図ることや、多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方について述べられています。今後、これらの事業を踏まえ、学習指導要領の改訂に向けて検討が進んでいくものと思われます。

諮問の要点がまとめられた資料では、次の3点が、これからの社会を生きる子供たちにとって重要であると示されています。

- 👉 自らの人生を舵取りする力を身につけること
- 👉 持続可能な社会の創り手となること
- 👉 豊かな可能性を开花できること



全ての子供たちが自分の人生をたくましく、豊かに生きる力を身に付けられるよう、全県で一体となって教育活動を推進していきましょう。